

ハヤトウリ (ウリ科)

果実をそのまま定植する風変わりな野菜。9月以降にならないと開花・結実しない。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培				保温	果実伏せ込み	定植				収穫			

1) 適地

よく肥えた保水力に富むやや軽い土が適します。生育適温は20～22℃以上です。短日性なので9月下旬にならないと着花結実しません。栽培期間が長いので、フェンスに這わせるなど、他の野菜のじゃまにならない所で栽培します。

2) 品種

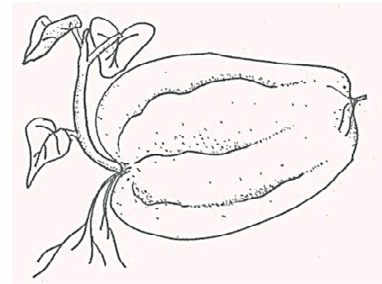
白色種：果実は淡黄色をしており、果面に刺毛が多く、粕漬けに適しています。

緑色種：大型で果皮は緑色をしています。草生が強くて収量は多いが、青臭く、食味は白色種より劣ります。

3) 作り方

【圃場の準備】定植の1か月前に1株当たり堆肥10kg、1週間前に緩効性肥料150gを施します。

【催芽と定植】1株に200個位とれるので、必要な分だけ果実を用意してください。3月下旬頃、モミガラを入れた発泡スチロール箱の中に果実を横向きに伏せ込み、ハウスや室内など暖かいところに置いておくと萌芽します。5月上旬、晩霜の心配がなくなってから定植します。定植は、果実が2/3程度埋まるように行います。地這い栽培、棚仕立てのいずれも、4m角に1株の割合で定植します。



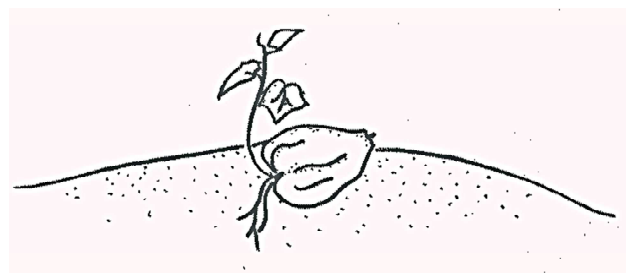
萌芽後の果実

【整枝・追肥】親づるの本葉5～6枚で摘芯し、子づるを3～4本伸ばします。子づるが120cmぐらいになったら、摘芯し6～7本の孫づるを伸ばします。孫づるが伸びだしたら高度化成肥料を1株当たり500g施用します。

【灌水】地這い栽培、棚仕立てとも乾燥する時期には、株元に十分な敷きワラをするとともに、盛夏期には適度な灌水も必要です。

【収穫・利用方法】開花は9月下旬からですが、受粉すればの果実の肥大は早く、

開花後10日～20日位で粕漬け用になります。奈良漬けには、30～35日の大きい果実を皮がかたくなならないうちに収穫し、利用します。



果実の定植方法